日本語教育文法から見た「は」と「が」
―「は」と「が」はこんなに簡単だった！―

一橋大学国際教育交流センター教授　庵　功雄
isaoiori@courante.plala.or.jp
http://www12.plala.or.jp/isaoiori/

はじめに

- **本講演の目的**
- **「は」と「が」の使い分け**について考える
- そのためには、**日本語教育文法**の考え方が有効
- 「は」と「が」は機能が大きく異なる助詞である
- 「は」と「が」の使い分けを考えるためには、**「は」と「が」の基本的な違いを理解することが重要**である
- 「は」と「が」の基本的な違いがきっちり理解できれば、**「は」と「が」の使い分け自体は「とても簡単」**である

1. 日本語教育文法が現れるまで

- **国語学から日本語学へ**
- 個別言語学としての日本語の研究（仁田1988）
- 日本語教育のための文法（寺村1982）

1．日本語教育文法が現れるまで

- **「国語」と「日本語」の違い**
- **国語**:「～の」が必要な名詞
- 　国語（日本）＝日本語、国語（韓国）＝韓国語
- **日本語**:固有名詞
- ＜教科の名称＞
- 小中高→**国語**
- 大学　→**日本語**

1．日本語教育文法が現れるまで

- **「国語」と「日本語」の違い**
- ＜教科の名称＞
- 小中高→**国語**
- 大学　→**日本語**
- ＜国語と日本語＞
- **国語**　→**日本語母語話者（NS）**のためのJapanese languageの教育
- **日本語**→**非日本語母語話者（NNS）**のためのJapanese languageの教育

1. 日本語教育文法が現れるまで

- **「国語」と「日本語」の違い**
- 国語　→日本語母語話者（NS）のための教育
- 日本語→非日本語母語話者（NNS）のための教育
- **「国語」という名称は、教室の中に、日本語が「母語」ではない子どもがいることを隠してしまいがち**
- Ex. 昨日お赤飯を食べました。
- **外延的意味**　昨日赤いごはんを食べた
- **内包的意味**　昨日お祝いがあった
- →母語話者の子ども対象だと、内包的意味は説明されないことが多い（⇔留学生対象の「日本語」科目）
- **→国語の場合、内包的意味がわかっていないと、文章の真の意味を理解することが困難になることが多い**

1. 日本語教育文法が現れるまで

- **国語学から日本語学へ**
- 個別言語学としての日本語の研究（仁田1988）

1. 日本語教育文法が現れるまで

- **国語学から日本語学へ**
- 日本語教育のための文法（寺村1982）
- 　松下大三郎は『改撰標準日本文法』（1928）の緒言で、自分の文法研究の動機について次のように述べている。
- 　私は少年の頃、当時最も世に行はれて居った中等　教育日本文典とスキント　ンの英文典の二　書を読んで其の体系の優劣の甚しいのに驚いた。英文典は之を一読すれば和英辞典さへ有れば曲りなりにも英文が作れる。然らば英米人に日本文典と英和辞典とを与へれば日本の文が作れるかといふと、そうは行かない。これ実に日本文典の不備からである。
- 　本書の目的とするのも全くこれと同じで、その意味で本書の目標は**実用文法の作成**である（寺村1982: 15）。

1. 日本語教育文法が現れるまで

- **日本語学と日本語教育の関係**
- 蜜月期（1980年代～1990年代半ば）
- →寺村秀夫氏の急逝（1990年）以降、両者は徐々に疎遠になっていく
- ←日本語学の「成熟」
- →日本語学の研究が進めば、それが結果として、日本語教育の役に立つ（はずだ）という「誤解」が生じる
- →日本語学と日本語教育の乖離（「半離婚状態」庵2011）
- →現在に至る

1. 日本語教育文法が現れるまで

- **日本語学と日本語教育の関係**
- 日本語学の「成熟」
- 日本語学の研究が進めば、それが結果として、日本語教育の役に立つ（はずだ）という「誤解」が生じる
- →日本語学と日本語教育の乖離（「半離婚状態」庵2011）
- →日本語学と日本語教育をつなぐ試み
- →「日本語教育文法」の成立
- 庵・高梨・中西・山田（2000, 2001）『ハンドブック』
- グループ・ジャマシイ（1997）『日本語文型辞典』

2. 日本語教育文法を作るために

- **日本語教育文法の目的**
- 日本語教育に直接役立つ文法記述を目指す

2. 日本語教育文法を作るために

- **日本語教育文法に必要なこと**
- 理解レベルと産出レベルの区別
- 母語話者にとっての文法と非母語話者のための文法
- 無標と有標
- 文法シラバスの見直し

3. 理解レベルと産出レベル

- **理解レベルと産出レベル**
- **理解レベル**:意味がわかればいいもの
- **産出レベル**:意味がわかった上で、使える必要があるもの
- Ex. 事由と理由
- 　事由:意味は「理由」だが、法律、行政関係に限られる
- →理解レベル
- 　理由:明らかに産出レベル
- →語彙的には圧倒的に理解レベルが多い

3. 理解レベルと産出レベル

- **理解レベルと産出レベル**
- **理解のための文法**
- →特に、「聞くための文法」には母語話者の予測の実態を明らかにする必要がある
- →現実には、まだまだ手つかず
- →日本語教育文法では、まずは、**産出のための文法**を考えるべき
- **→学習者にとっても、教師にとっても、文法で「難しい」（と考えている）のは産出レベル**

4. 母語話者にとっての文法と非母語話者のための文法

- **母語話者にとっての文法**
- 母語話者は**文法能力**を持っている
- **文法能力（grammatical competence）**
- 1. 母語話者は任意の母語の文の文法性を判断できる
- 2. 母語話者は、モニターができる環境では、文法的な文だけを産出する
- →母語話者は、（母語の）文法を知らなくても、文法的な文を産出できる
- →母語話者にとっての文法は「謎解き」（白川2002a）

4. 母語話者にとっての文法と非母語話者のための文法

- **母語話者にとっての文法**
- 母語話者は文法能力を持っている
- →母語話者にとっての文法は「謎解き」（白川2002a）
- 〇〇とは言いますね。
- ××とは言いませんね。
- それはなぜかと言うと、△△だからです。←**謎解き**

4. 母語話者にとっての文法と非母語話者のための文法

- **非母語話者のための文法**
- **非母語話者は文法能力を持っていない**
- ←文法能力（内省力）を持っている人は「非母語話者」ではない
- ←文法能力を持っているのなら、文法の説明は不要
- →非母語話者のための説明では、母語話者の内省を前提にしてはいけない
- 〇〇とは言いますね。？
- ××とは言いませんね。？
- それはなぜかと言うと、△△だからです。？？？？

4. 母語話者にとっての文法と非母語話者のための文法

- **非母語話者のための文法**
- 非母語話者は文法能力を持っていない
- →**非母語話者にとっての説明では、母語話者の内省を前提にしてはいけない**
- →**日本語学の記述（母語話者の内省に基づく記述）は、そのままでは、日本語教育では使えない**
- →**非母語話者のための文法記述**が必要
- →日本語とニホン語（白川2002b）

4. 母語話者にとっての文法と非母語話者のための文法

- **規則の内容の違い**
- 母語話者にとっての文法における規則
- 体系性
- 網羅性
- →「（規則のカバー率）**100%を目指す文法**」

4. 母語話者にとっての文法と非母語話者のための文法

- **規則の内容の違い**
- 母語話者にとっての文法における規則
- 体系性
- 網羅性
- →「（規則のカバー率）100%を目指す文法」
- →1. 規則の数を増やす
- 　2. 規則を抽象化する

４．母語話者にとっての文法と非母語話者にとっての文法

- **規則の内容の違い**
- 母語話者にとっての文法における規則
- →「（規則のカバー率）100%を目指す文法」
- →１．規則の数を増やす
- ２．規則を抽象化する
- １．→記憶できない、相互に矛盾する
- ２．→理解レベルでは有効だが、産出レベルには不適当
- Ex. 太郎はベッド{??に／で}寝ている。

4. 母語話者にとっての文法と非母語話者のための文法

- **規則の内容の違い**
- 母語話者にとっての文法における規則
- →「（規則のカバー率）100%を目指す文法」
- →1. 規則の数を増やす
- 　2. 規則を抽象化する
- →1、2とも産出のためには不適切
- →**非母語話者にとっての文法（日本語教育文法）では、**
- 「（規則のカバー率）**100%を目指さない文法**」**が必要**

5. 無標と有標

- **無標と有標（庵2012）**
- [p]と[b]
- [p]＝[＋両唇、＋破裂、－有声]
- [b]＝[＋両唇、＋破裂、＋有声]
- 他の素性が共通で、1つの素性だけが＋－で異なるとき、－の方を「**無標**（unmarked）」、＋の方を「**有標**（marked）」と言う

5. 無標と有標

- **無標と有標**
- **相補分布**
- 1. その環境でAかBのどちらかを使う必要がある
- 2. 条件が厳しい方が有標、そうでない方が無標
- サ行子音
- [sa ʃi su se so]
- →[s]か[ʃ] （条件1）
- [i]の前 →[ʃ]（有標）（条件2）
- それ以外→[s]（無標）

5. 無標と有標

- **類義表現の記述と無標と有標**
- 形式Aと形式Bが相補分布をなし、形式Aのみが使える文脈をXとしたとき、それ以外の文脈Y（＝not X）で形式Bが使えるなら、形式A（および、文脈X）は有標、形式B（および、文脈Y）は無標である
- →この形に記述することができれば、
- 文脈X　　→形式A
- それ以外の場合→形式B
- となり、**形式Aと形式Bの使い分けの規則は1つですむ**

5. 無標と有標

- **類義表現の記述と無標と有標**
- Ex. 文脈指示のソとア
- 　文脈X：話し手も聞き手も指示対象を知っている→ア
- 　それ以外の場合　　→ソ
- →規則は1つだけ

	聞き手		
話し手		知っている	知らない
	知っている	ア	ソ
	知らない	ソ	ソ

6.「は」と「が」の基本的な違い

- **「は」と「が」は日本語の基本的な構造に関わる**
- 「は」と「が」の（機能の）違いを理解することは重要
- **「は」と「が」の違い（使い分け）とは、「は」と「が」がともに主語を表す場合のこと**
- 「は」と「が」の違い（使い分け）はとても簡単

6.「は」と「が」の基本的な違い

- **「は」と「が」は同じではない**
- 「は」:主題（topic, theme）を表す
- 「が」:主語（subject）を表す

「は」の特徴

- **「は」は文の主題を表す**
- **主題（topic, theme）**：（通常）文頭にあって、その文が何について述べるかを聞き手（読み手）に伝えるもの
- 文全体から主題を除いた部分を**解説**（comment, rheme）と言う。
- （1）田中さん**は**｜学生です。
- 　　主題　　解説
- （2）私**は**｜昨日友だちと映画を見た。
- 　主題　　解説

「が」の特徴

- **「が」は文の主語を表す**
- **主語**：動作、出来事、存在、状態・性質などの「主（ぬ
- し）」を表すもの
- （3）太郎**が**本を読んでいる。　（動作主：太郎）
- （4）昨日駅前で火事**が**あった。（出来事の主：火事）
- （5）机の上に本**が**ある。　（存在の主：本）
- （6）花子**は**賢い。　（状態の主：花子）
- （7）太郎**は**大学生だ。　（性質の主：太郎）
- →状態・性質の主は「は」で表されるのが普通

格枠組み

- **格枠組み（case frame）**：
- 述語（動詞、イ形容詞、ナ形容詞、名詞＋だ）が取る**必須補語（項）**のパターン
- 泳ぐ＜（人）が＞、食べる＜（人）が、（もの）を＞
- 割れる＜（もの）が＞
- 賢い＜（人）が＞、親切だ＜（人）が＞、
- アメリカ人だ＜（人）が＞

「は」と「が」の基本的な違い

- **主語でもある「は」と主語ではない「は」**
- **無題化**：主題を表す「は」の文から主題を取り除く操作
- (8) 田中さん**は** この本を書いた。
- 主題　　解説
- (9) 田中さん**が**この本を書いたこと**は** 事実だ。
- 主題　　解説
- (8)の「田中さんは」はガ格で「主語」
- →「田中さんは」は主題＆主語

「は」と「が」の基本的な違い

- **主語でもある「は」と主語ではない「は」**
- **無題化**：主題を表す「は」の文から主題を取り除く操作
- (10) この本**は** 田中さんが書いた。
- 主題　　解説
- (11) この本を 田中さん**が**書いたこと**は** 事実だ。
- 主題　　解説
- (10)の「この本は」はヲ格で「主語ではない」
- →「この本は」は主題だが主語ではない

「は」と「が」の基本的な違い

- **主語でもある「は」と主語ではない「は」**
- （8）田中さん**は** この本を書いた。（主題、主語）
- （10）この本**は** 田中さんが書いた。（主題）
- 書く＜（人）が、（もの）を＞
- **「は」には、主語でもある「は」と主語ではない「は」がある（どちらの場合も「は」は主題を表す）**

「は」と「が」の基本的な違い

- **主題が違うと何が違う？**
- (12)A:田中さんは最近どうしてるの？
- B1:〇田中さん**は** この本を書いたんだよ。
- B2:？この本**は** 田中さんが書いたんだよ。
- (13)A:この本は何？
- B1:？田中さん**は** この本を書いたんだよ。
- B2:〇この本**は** 田中さんが書いたんだよ。
- →テキスト上で主題が決まっている場合、その主題に合わせる必要がある
- →「**は**」は**伝達レベル**の助詞、「**が**」は**命題レベル**の助詞

「は」と「が」の基本的な違い

- **「は」の兼務（三上1960）**
- 田中さんがは この本を書いた。（「田中さんが」を主題に）
- 田中さんがは この本を書いた。
- →（8）田中さん**は** この本を書いた。
- この本をは 田中さんが書いた。（「この本を」を主題に）
- この本をは 田中さんが書いた。
- →（10）この本**は** 田中さんが書いた。
- （14）田中さんがこの本を書いた（こと）　←**無題化**（命題）
- →「は」は「が」や「を」の機能を兼ねている
- （三上章：**「は」の兼務**（三上1960））

「は」と「が」の基本的な違い

- **「は」はとりたて助詞**
- (15)太郎も見舞いに来た。(「太郎が来た」)
- (16)私はその本も読んだ。(「その本を読んだ」)
- (17)私は花子にもそのことを連絡した。
- (18)花子からも私に連絡があった。
- →とりたて助詞の前では「が」「を」は消えるのが普通
- それ以外の格助詞は消えない
- (8)田中さんは この本を書いた。(「田中さんが」)
- (10)この本は 田中さんが書いた。(「この本を」)
- (19)花子には 私が連絡した。
- →**「は」はとりたて助詞**

「は」と「が」の基本的な違い

	は	が
品詞	とりたて助詞	格助詞
文法的機能	主題	主語
関わるレベル	伝達レベル	命題レベル

「は」と「が」の違いに入る前に

- **主語ではない「が」**
- **1)「好きだ、嫌いだ」の目的語**
- (20)太郎は寿司**が** 好きだ／嫌いだ。
- **2)項の増減をともなわないボイス表現**
- (21)花子はドイツ語{○が／○を}話せる。
- (22)これからはゆっくり読書{○が／×を}できる。
- (23)この本は論理展開{○が／×を}わかりやすい。
- (24)私は高い音{○が／？を}聞きにくい。
- (25)おいしい料理{？が／○を}作りたい。(庵1995)

「は」と「が」の違いに入る前に

- **はーが構文:「XはYがZ(だ)」(Zは形容詞が普通)**
- **1)Yが省略できないもの**
- (26)象は鼻が長い。(×象は長い)
- (27)太郎は背が高い。(×太郎は高い)
- →「YがZ(だ)」全体で1つの述語
- **2)Yが省略できるもの**
- (28)この本は内容が面白い。(≒この本は面白い)
- (29)あのスーパーは野菜が安い。(≠あのスーパーは安い)
- (30)田中さんはお父さんが医者だ。(≠田中さんは医者だ)
- →「Yが」は「X」の1つの側面を表している(高橋1977)
- →どちらの「Yが」も主語と考える必要はない

「は」と「が」の使い分け

- **必要な区別**
- **1）単文と複文**
- 　単文：従属節を含まない文
- 　複文：従属節を含む文
- （31）雨が止んだ**ので**、私たちは出かけた。（複文）
- （32）太郎は来た**が**、花子は来なかった。（複文）
- （33）私が買った**本**はこれです。（複文）
- →これら以外は単文
- →**主節と従属節の主語が同じ場合は単文と同じ**
- →従属節 vs. 単文＆主節

「は」と「が」の使い分け

- **2）従属節の場合**
- **主節と従属節（連体修飾節を含む）の主語が同じときは主節の主語と考える**
- （34）田中さん**は** 部屋に入ると、電気をつけた。
- 従属節　　主節
- →「田中さん」は従属節の主語＆主節の主語
- →「田中さん」は主節の主語と考える
- （35）田中さん**が**部屋に入ると、林さんが電気をつけた。
- 従属節　　主節
- →「田中さん」は従属節（だけ）の主語
- →「従属節の主語」で考えるのはこのタイプだけ

「は」と「が」の使い分け

- **3）中立叙述と総記**
- 「が」の2つの意味（久野1973）
- ＜**中立叙述**＞
- （36）雨**が**降っている。
- （37）昨日駅前で火事**が**あった。
- ＜**総記**＞A=B
- （38）*これ***が**正解です。
- ＝正解**は***これ*です。
- （39）*私***が**会議に出席します。
- ＝会議に出席する**のは***私*です。
- →英語の強調構文に相当（It is ～ that/who….）
- →**主語（斜体部）を強調する**構文

フローチャート

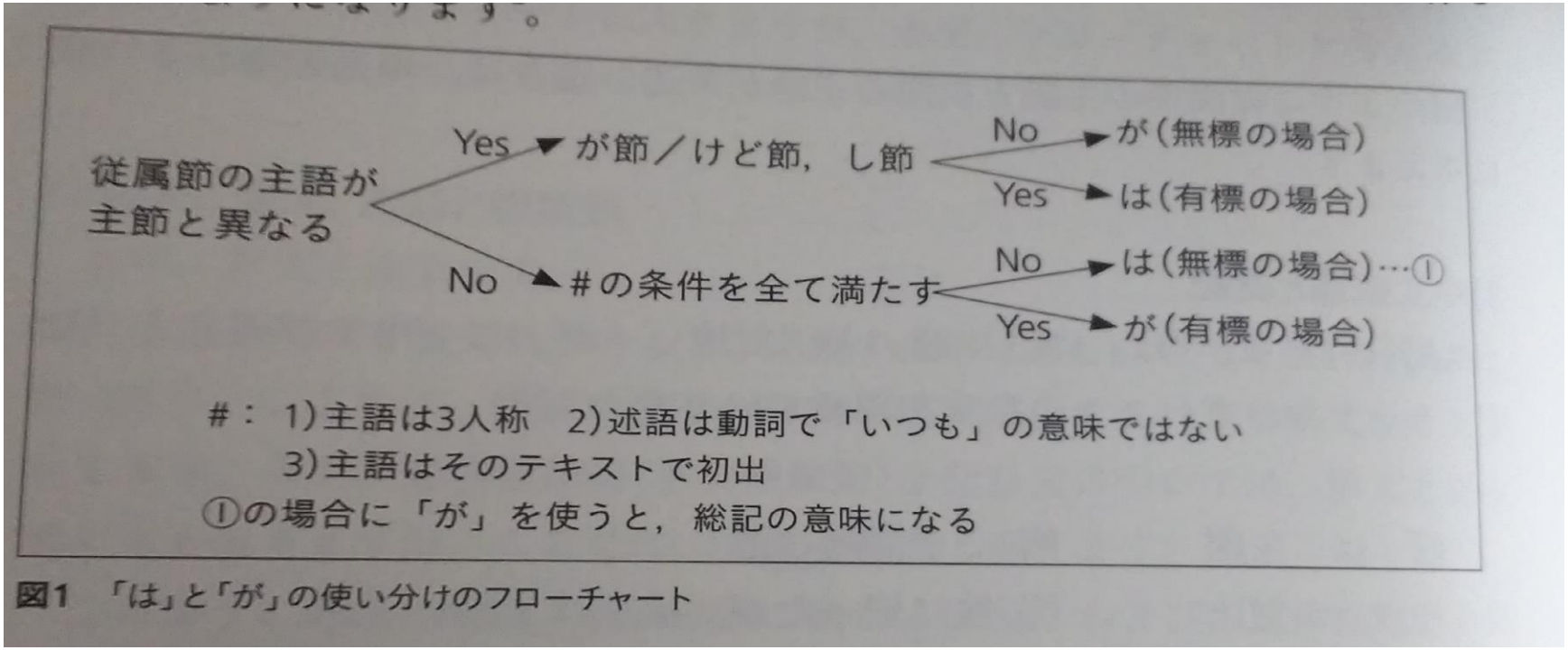

図1　「は」と「が」の使い分けのフローチャート

フローチャート

- **基本的な使い分け**
- 従属節
- 　無標→が
- 　有標→は（が節／けど節、し節）
- 主節（主語を強調しない場合＝無標）
- 　無標→は…①
- 　有標→が（1～3を全て満たす場合）＜**中立叙述**＞
- 　　1）主語は3人称
- 　　2）述語は動詞で「いつも」の意味ではない
- 　　3）主語はそのテキストに初出
- →①から「は」を使うべきところで「が」を使うと、必ず**＜総記＞**の解釈になる

フローチャート

- **基本的な使い分け**
- 従属節
- 　無標→が
- 　有標→は（が節／けど節、し節）
- 主節（主語を強調しない場合＝無標）
- 　無標→は
- 　有標→が＜**中立叙述**＞
- ＜要するにどういうことか？＞
- 従属節→が
- 主節　→は

フローチャート

- **要するにどういうことか？**
- 従属節→**が**
- 主節　→**は**
- →**「は」と「が」の使い分け（の原理）は「とても簡単」**

フローチャート

- 主節（主語を強調する場合＝有標）
- 　無標→は…①
- →①から「は」を使うべきところで「が」を使うと、必ず**＜総記＞**の解釈になる
- →どんなときに「総記」を使うべきか？
- →**母語で「主語を強調したい」ときには主語に「が」をつける（母語の知識を活かした日本語教育文法）**

「は」と「が」の本質的な違い

- **「は」の本務（三上1960）**
- （37）太郎**が** ここに来たとき、私は出かけていた。
- （38）太郎**は** ここに来たとき、セーターを着ていた。
- **は**：文末まで係る
- **が**：従属節で止まる（複文の場合、文末には係らない）
- →**「は」の本務**（三上1960）

「は」と「が」の本質的な違い

- **「は」の本務（三上1960）**
- （38）太郎**は** ここに来たとき、セーターを着ていた。
- （39）*吾輩**は***猫である。名前はまだ無い。どこで生れたかとんと見当がつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニャーニャー泣いていた事だけは記憶している。*吾輩**は***ここで始めて人間というものを見た。（夏目漱石「吾輩は猫である」）
- →「吾輩は」は、文末（「猫である」）を越えて、「記憶している」まで係っている（**「は」のピリオド越え**（三上1960））

- **参考文献（主なもの）**

- 庵　功雄（2003）『『象は鼻が長い』入門―日本語学の父三上章』くろしお出版
- 庵　功雄（2011）「日本語記述文法と日本語教育文法」森篤嗣・庵功雄編『日本語教育文法のための多様なアプローチ』ひつじ書房
- 庵　功雄（2012）『新しい日本語学入門（第2版）』スリーエーネットワーク
- 庵　功雄（2017）『一歩進んだ日本語文法の教え方1』くろしお出版
- **庵　功雄（2018）「第1部 9「は」と「が」（1）、10「は」と「が」（2）」（およびその参考文献）『一歩進んだ日本語文法の教え方2』くろしお出版**
- 庵　功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘（2000）『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 庵　功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘（2001）『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- グループ・ジャマシイ（1997）『日本語文型辞典』くろしお出版
- 白川博之（2002a）「外国人のための実用日本語文法」『月刊言語』31-4、大修館書店
- 白川博之（2002b）「記述的研究と日本語教育―「語学的研究」の必要性と可能性―」『日本語文法』2-2
- 野田尚史（1985）『セルフマスターシリーズ1「は」と「が」』くろしお出版
- 野田尚史（1996）『新日本語文法選書1「は」と「が」』くろしお出版
- **三上　章（1960）『象は鼻が長い』くろしお出版**

ご清聴ありがとうございました